

大人用



伝道地便り

2024年 第3期 中央アメリカ支部

- | | |
|-----------------------|------------|
| 第1話「ジェリーという名のタイムカプセル」 | ドミニカ国 |
| 第2話「車強盗！」 | トリニダード・トバゴ |
| 第3話「わたしはあなたが必要です」 | トリニダード・トバゴ |
| 第4話「パウロの歩みに倣って」 | コロンビア |
| 第5話「本当の宝物」 | コスタリカ |
| 第6話「3人の子どもを求めて祈る」 | コスタリカ |

ADVENTIST
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. ジェリーという名のタイムカプセル ドミニカ国



アントニア

新学期初日、教師であるアントニアは、白、ピンク、黒、灰色などの華やかな包装紙で飾られたクッキーの箱を持って、担任する3年生の子どもたちの前に立ちました。そして黄色と緑色の紙を配りました。受け取った子どもたちは興味津々です。

アントニア先生は、箱を指しながら、「これは、タイムカプセルです」と言いました。そして、紙を持って、「この紙に、あなたの名前と、今年度あなたがお祈りしたいことを書いてください」と言いました。祈りのリクエストが書かれた紙は箱の中に入れられ、箱はしっかりと封印されることが説明されました。そして年度末になって箱を開け、神さまがどのようにみんなの祈りに応えてくださったかを確認し、感謝パーティを開きましょうというのです。

エベネゼル・セブンスデー・アドベンチスト小学校の子どもたちはワクワクしながら祈りのリクエストを書きました。アントニア先生は、「先生も、神さまが人生を変えてくださると心から信じています」

と言いながら、子どもたちと同じように祈りのリクエストを書いて、箱に入れました。子どもたちも、望んでいることを思い思いに紙に書きました。

箱を封印した後、1人の男の子が手を挙げました。そして、興奮気味に、「箱に名前をつけようよ！」と言いました。先生がうなずくと、男の子は、「ジェリーという名前のタイムカプセルにしよう！」と提案しました。子どもたちはみんな大喜びで拍手しました。それから男の子は、箱を持ってお祈りをささげました。「神さま、ジェリーをありがとうございます」

アントニア先生は、ドミニカ国の新学期が始まる数日前に、他のアドベンチスト学校の先生からタイムカプセルを教育ツールとして用いているという話を聞きました。アントニア先生はそのアイディアを気に入り、エベネゼル・セブンスデー・アドベンチスト小学校でも、始業式の日に行われる、宗教活動の中に取り入れようと決めました。

何週間も何か月も、子どもたちは、ジェリーの箱を持ってお祈りをささげ続けました。「わたしたちの目標が達成しますように」と、祈る子どもがいれば、「夢をかなえてください」と、祈る子どももありました。校長先生や牧師先生、教会の代表の人など教室にお客さんが来られたときには、子どもたちはジェリーを紹介し、お客さんにもジェリーの箱を持って、祈ってもらいました。

半年過ぎた時に、ある女の子が手を挙げました。そして、「先生、先生！ お話したいことがあります」と言いました。彼女は、読むことが上手になれますようにと書いて祈っていたら、神さまがお祈りに応えてくださり、読むことが上手になったことを証しました。すると、いくつもの手が挙がりました。ある子どもは、良い成績を取ることができたこと、また、2人の子どもは、他の島で暮らしているお父さんと会って、一緒に過ごすことができたことを証しました。また、ある女の子は弟や妹が欲しいと祈っていたら、近くに赤ちゃんを産んだばかりの

おばさんが引っ越してきたことを証しました。子どもたちの証が終わった時、アントニア先生は頭を垂れて感謝のお祈りをささげました。そして、マルコによる福音書 9 章 23 節のみ言葉を読み上げました。「イエスは言われた。『「できれば」と言うか。信じる者には何でもできる。』」

今期の 13 回献金の一部はエベネゼル・アドベンチスト小学校の増築計画のために用いられます。1976 年創立の小学校は、ドミニカ国にある 62 の小学校の中で常にトップ 10 に名前を連ねています。学校は、幼稚園生から 4 年生までの 160 人以上の子どもたちで過密状態です。40 人の 5、6 年生は、小学校から数ブロック離れたその場しのぎの建物で学んでいます。もっとたくさんの保護者がこの学校に子どもを通わせたいと願っていますが、教室が不足しています。9 月 28 日（土）のために、皆さまの心のこもった献金の準備を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・地図でドミニカ国の位置を示しましょう。そして、今期の 13 回献金で建設の支援を行う小学校があるドミニカ国の首都ロゾーも示すと良いでしょう。
- ・YouTube でアントニアについて短い動画を見ましょう。 bit.ly/Teacher-Antonia.
- ・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq.
- ・アメリカ中央支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/iad-2024
- ・この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- ・ドミニカ国はハリケーン（日本でいう台風）が襲う地域に位置しており、ハリケーンの影響を受けやすい国です。
- ・ドミニカ国は絶滅危惧種レッサアンティルイグアナの最後の生息地です。
- ・ドミニカ国にはたった 4 種類の両生類しか存在しません。世界中を見ても最大級のマウンテン・チキンと呼ばれるカエルはドミニカ国とモントセラトでしか見られません。
- ・ドミニカ国の島では火山のクレーター内の噴気孔からあふれ出たボイリング・レイク〔温泉湖〕があります。その直径は 60～75 メートルほどで、世界第 2 番目の大きさを誇ります。
- ・ドミニカ国のほとんどの人々のルーツはアフリカです。

2. 車強盗！

トリニダード・トバゴ



ビバリー

夜 11 時 30 分頃、ビバリーが車を降りると、誰かがビバリーを車の中に押し戻しました。ビバリーを押した人物は、彼女を運転席側から助手席に強いて移動させました。その間に、別の人物が後部座席に乗り込み、ビバリーの首に銃を押し当てました。

運転席にいる男は、「ドライブに出よう」と言いました。そして、カリブ海に浮かぶ島国、トリニダード・トバゴにあるビバリーの家から車を出しました。3 人はしばらく黙ったままでした。

まず、ビバリーが口を開きました。「あなたたちは、わたしを殺すつもりなの？」

運転手は、「おまえが、俺たちを見なければ殺すつもりはない」と言いました。ビバリーはすでに、運転手がフード付きの洋服を着ていたのを見ましたが、その後は彼を見ないように気をつけました。すると、運転手は、「俺たちがおまえのことをずっと追っていたのを知っているか？」と聞きました。ビバリーは答えませんでした。

ビバリーが、セブンスデー・アドベンチストの教育機関、サザン・カリビアン大学を出て 2 時間半が

経っていました。ビバリーはそこで働きながら、心理学の修士課程を勉強しています。ビバリーは友人と学校を出て、その後夕食をしてから、友人を家まで送り届けたあとでした。

運転手は、「送っていった女は誰だ？」と、聞きました。ビバリーは、「クラスメートよ」と、答えました。運転手は、「俺たちはずっとおまえのことをつけていたんだ」と、言いました。

後部座席の男がビバリーの手を無理やり取り、指から結婚指輪を取ろうとしました。運転手は、「そのままにしておけ！」と、言いました。男は、ビバリーの手を放しました。

運転手は、ビバリーに、最近、島で起こった連続殺人について知っているかと尋ねました。彼が言うには、彼の友人が殺人に巻き込まれ、これからビバリーの車を使って復讐に行くというのです。ビバリーは、「わたしを解放してくれない？」と、頼みました。しかし、彼は、「いや、一緒に連れていく」と、言いました。

ほんの少しすると、運転手は気を変え、ビバリーに、「誰か電話できる相手はいるか？」と、聞きました。

「主人」

「では、電話しろ。旦那が電話に出るか試してみよう」

後部座席の男がビバリーのカバンから彼女の携帯電話を取り出し、ビバリーに渡しました。そこで、ビバリーは夫に電話しました。しかし、誰も電話に出ません。後部座席の男は、ビバリーが本当に夫に電話したのかを疑って、彼女から電話を取り上げました。彼は、「夫という割には、短縮ダイヤルにすら登録してない！」と、言いました。夜のドライブは続きました。

ビバリーは、「とても怖いわ。CD をかけてもいい？」と、尋ねました。再生ボタンを押しても、CD プレーヤーに CD は入っていませんでした。ビバリー

一には理解できませんでした。その日の朝、大学までのドライブ中、確かに CD を聞き、「イエスさまが、ハンドルを握ってくださる」と、歌ったのです。ビバリーは CD が床に落ちてしまったのではと思い、探してみました。すると、CD は床にありました。ビバリーは、「落ちていたから、入れるわ」と、言いました。

讚美歌が車内に流れ始めました。しかし、それはビバリーが望んでいた CD ではありませんでした。ビバリーは、その CD がどこから来たのか見当もつきませんでした。誰かが、「我が主よ、わたしはあなたに信頼します」と、歌っていたのです。

後部座席の男は、ぶつぶつ文句を言いました。運転手は、運転に忙しく、ビバリーに、「俺たちはこの車のナンバープレートを変えるから、警察は明日の朝、おまえの車を見つけるだろう」と、言いました。運転手は、ビバリーを解放したがっている様子でした。しかし、ビバリーは、まったくお金のない状態で暗闇に 1 人放り出されることを恐れていました。ビバリーは、「お金がなくて、家に帰れないわ」と、言いました。運転手は、後部座席の相棒にビバリーにお金を渡すように命じました。相棒は、「いくらだ？ 20 ドルか？」と、聞きました。ビバリーは、「わたしの財布に 1000 ドル入っているわ」と、言いました。ちょうど、その日の朝、ビバリーは、大きな買い物をするために、銀行からお金を引き出していました。後部座席の男はすでにそのお金を見つけていたはずですが、ビバリーはあえてそのお金のことを話すことで、運転手にもその存在を知らせようとした。運転手は、「この女に 100 ドル渡せ」と、命じました。ビバリーは、お金をもらい、車は止まりました。そして、降りるように命じられました。ビバリーは、道を渡り、家に向かうタクシーを停めたのでした。

今日まで、ビバリーは、どうして神さまがこのような恐ろしいことが起こるのを許されたのか理解できていません。しかし、起きたことを振り返る時、神さまは、ビバリーに「すべてをかけて私に信頼なさい」ということを教えておられたように感じています。

車強盗にあう日の朝、ビバリーは、「イエスさまが、

ハンドルを握ってくださる」と、歌いました。しかし、他の多くの日と同じように、その日もビバリーは日中、神さまの助けなしに自分で人生をコントロールしようとしていました。

ビバリーが車を失ったのは、3 回目でした。1 回目は、家の前に停めていた車が盗まれたためでした。2 回目は事故によって破損したためでした。

強盗にあった日、家に帰るために乗ったタクシーの中で、「私があなたを愛していることを示すために、わたしは、何度あなたの前を通りすぎなければいけないのだろうか」という歌詞の歌を聞いたのは、偶然ではなさそうです。

警察はビバリーの車を見つけることはできませんでした。しかし、ビバリーはそのことに不平は言いませんでした。なぜなら、車強盗の一件はビバリーの人生のターニングポイントになったからです。その後、ビバリーは、人生の全てにおいて神さまを信頼することを決心しました。「車が盗まれた人の多くは殺されています。なぜ、私が生きのびたのかはわかりません。クリスチャンとして、わたしたちはどんなときでも、神さまに信頼を置かなければいけません」と、ビバリーは言います。

この伝道地便りは、トリニダード・トバゴの生活や、2018 年の 13 回献金で大学教会を建設したサザン・カリビアン大学の様子がわかるものです。ビバリーが働く大学は、2021 年にも 13 回献金の一部を利用して感化センターを開設しました。トリニダード・トバゴはじめ、世界中の人々に神さまを伝えるために用いられる 13 回献金へのご協力を心より感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・地図でトリニダード・トバゴの位置を示しましょう。
- ・YouTube でビバリーについて短い動画を見ましょう。 bit.ly/Teacher-Antonia.
- ・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq.
- ・アメリカ中央支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/iad-2024

3. 「わたしはあなたが必要です」 トリニダード・トバゴ



フェイス

夜、家にひとりでいた 11 歳のフェイスは、制服のシャツのボタンを縫いつける手を止めました。彼女は鋭いハサミを手にとると、血が出るまでゆっくりと自分の腕を切りました。頭がくらくらし、気絶しそうになりました。

数か月前、フェイスの母親が緊急手術を受けてから、彼女の人生は悪化の一途をたどり始めました。母親が病院で治療を受けている間、フェイスは 6 か月間、トリニダード・トバゴの家で、1 人で家に残されました。通常このような場合、年長の兄弟や近所の人たちが助けるものです。しかし、フェイスに兄弟姉妹はいませんでした。近所の人たちもフェイスが 1 人で家にいることをまったく知りませんでしたし、フェイスも助けを求めることをしませんでした。

彼女の父親は、別の場所に住んでいて、フェイスの人生にほとんど関わっていませんでしたが、週に 1、2 回訪ねてきては、「元気か？」と、聞きました。フェイスは、いつも「うん」としか答えようがありませんでした。

父親は時々お金を置いていきました。フェイスは父親にどのような暮らしをしているかを伝えませんでした。伝えたところで、父親が理解してくれるとは思わなかったからです。

フェイスはひとりで、ご飯と豆の料理を作ることが覚えました。米や豆が無くなると、父親が置いて

いったお金や母親が稼いだわずかなお金で、パン、バター、チーズを買ってしのぎました。自分で洋服を縫ったり、直したりすることも覚えました。

日中、フェイスは女子校に通っていました。以前から、いじめられていたのですが、母親の入院を機にそれがエスカレートしました。周りの女の子たちは、フェイスの痩せた外見、そして能力をあざ笑いました。最初、フェイスも、いつかは友だちになれるだろうと期待を抱いて、親切に接していました。しかし、何も変わりませんでした。フェイスの自己肯定感は無くなり、彼女は、自分のことが嫌でたまらなくなりました。

一度、母親を訪ねる機会がありました。ある人が家から 30 分ほど離れている病院まで車で送ってくれたのです。母親はやせ細り、顔色が悪く、生きているのがやつのように見えました。フェイスは母親の顔を見ると泣き崩れました。学校でのいじめのことも伝えたかったのですが、言えませんでした。

学校でのいじめはエスカレートしていきました。ある日、ある女の子が、フェイスに向かって、「あなたは自殺したらいい。そうしたらみんなが幸せになるわ」と、言いました。フェイスもそう思いました。その頃のフェイスは、自分はいじめられて当然だと思うようになっていました。愛も友だちも、良いと思うものは、何も自分は受け取る資格はないと思っていました。そして、フェイスは自分を傷つけるようになりました。まずは、食事を取らなくなりました。爪を伸ばし、血が出るまで体をかきむしりました。そのうち、かみそり、ナイフ、ハサミを使うようになりました。自分を傷つけることで何かを感じたかったのです。成績は B から F に落ちました。

そして、冒頭のハサミで自殺しようとする夜がやってきたのです。頭がくらくらする中で、フェイスは、母親の声を聞きました。長いこと聞いていなかった声です。その声は、「わたしはあなたが必要です」と言いました。「他の誰よりもあなたが必要です。たとえ、誰もあなたのことを必要としていなかったとしても」

その瞬間、フェイスは自分を傷つける手を止めました。フェイスは母親のために生きようと決めました。立ち上がり、傷をバンドエイドで覆いました。

次の日、先生がフェイスのバンドエイドに気づき、フェイスを個別に呼び出して、話を聞きました。先生は、「大丈夫？」と、聞いてくれました。フェイスは、泣き叫びました。何か月にもわたりフェイスの中に積りに積もった感情が爆発しました。先生も泣いていました。先生は、「食事は食べられているの？」と、尋ねました。

「食べていません。食べようとは思わないんです」
「寝られているの？」

「いいえ。お母さんなしでは寝られません」

その日から、先生はフェイスを大きな翼の中で守ってくれました。先生が見てくださるようになり、いじめも少しずつ減り、最終的には完全になくなりました。そして、母親が家に戻ってきました。なんとすばらしい日なのでしょう！ フェイスは今までのことをすべて伝えました。母親は話を聞いて、涙しました。フェイスの手を握り、「どんな形であれ、自分のことを傷つけるのはもうしないと約束してくれる？ わたしのもとからいなくなるようなことはしないでくれる？ わたしにはあなたが必要よ。わたしはあなたを愛しているわ」と、言いました。フェイスは、涙を流しながら、「約束するわ」と、答えました。

成績が悪くなってしまったことで、フェイスはもう一度同じ学年で学ばなければなりませんでした。フェイスはこのことをとても残念に思いました。しかし、母親はそうなってよかったのだと言いました。結果は母親の言う通りでした。フェイスは、古いクラスメートではなく、新しいクラスメートに囲まれ、その子どもたちに愛され、尊敬される存在になったのです。フェイスは良い友だちがたくさんできました。

母親は教会に行くようになり、フェイスのことも誘いました。2人は何年も教会から離れていました。フェイスは、教会はつまらないと思ってあまり乗り気ではありませんでした。しかし、行ってみると、歌うことやコワイヤーに参加することが楽しくなりました。そして、休むことなく教会に通うようになりました。フェイスも母親もイエスさまに心をささげ、バプテスマを受けました。

フェイスは、振り返ってみて、神さまは一番必要な時に、自分に母親の声を聞かせ、人生を救ってくださったと信じています。フェイスはこう言います。「あの時の出来事を説明することはできません。わたしは家で1人だったのです。しかし、確かにわたしは母親の声を聞きました。その時、一番必要だった人が母親なのだと思います。聖霊の働きだったのでしょうか。神さまは、わたしに何が必要かを知っておられたのです」

フェイスは、同じようにいじめにあっている若い人たちに対して次のように言います。「もし、タイムマシンがあったら、わたしは、11歳に戻って、自分自身に、『大丈夫だから。すぐに大丈夫になるから。すぐに、あなたを愛してくれて、あなたがあなたのままでいることに感謝してくれる良い人たちに会えるから。やるべきことは、神さまを第一にすること。ただそれだけ』と言ってあげたい」

この伝道地便りは、トリニダード・トバゴが抱える伝道の課題の一部を教えてくれています。2018年の13回献金の一部は、フェイスの家の近くにあるサザン・カリビアン大学教会の建設のために用いられました。編集者は、大学でフェイスと出会い、話を聞きました。今期の13回献金は中央アメリカ支部の若い人たちに希望を届けるために用いられます。皆さまの心のこもった献金を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 地図でトリニダード・トバゴの位置を示しましょう。
- YouTubeでフェイスについて短い動画を見ましょう。bit.ly/Teacher-Antonia.
- フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq.
- アメリカ中央支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。bit.ly/iad-2024

宣教メモ

- この国でのアドベンチストの教えに対しての最初の前向きな反応は、エレン・G・ホワイトの著書『人類のあけぼの』を手に入れた他教派の牧師からでした。その人は島で最初の安息日を守る人となりました。

4. パウロの歩みに倣って

コロンビア



ウィリントン

コロンビアのボゴタに住むウィリントンの人生は、彼が酒を飲むのをやめてから一変しました。仕事を始め、借金を返すことができ、内縁の妻ができました。そして、ウィリントンと妻、12歳の息子は神さまに心をささげる決心をしました。

ウィリントンがバプテスマを受ける前日、セブンスデー・アドベンチストの友人ジェイミーは、「君は現代のパウロになるよ。そしてたくさんの人を助ける働きをするよ」と言って、神さまがウィリントンの人生に特別なご計画をもっておられることを預言しました。

ウィリントン自身が、神さまがアルコール依存症の人々のために働くよう彼を召しておられることに気づくのに、そう時間はかかりませんでした。バプテスマから1か月後、安息日に、教会に向かって歩いていると、「ちょっと止まって」という声をウィリントンは聞きました。彼は足を止め、かつて酒におぼれたバーが立ち並ぶ街を見ました。その声は、こう続きました。「あなたは、ここにいるすべての人を助けます。あなたはかつて酒飲みでした。しかし今度は、ここで酒を飲む多くの人を助けるのです。わ

たしがその機会を用意しましょう。あなたは決してもう一度酒飲みにはなることはありません」

教会に着くと、ウィリントンはジェイミーを探しました。ジェイミーを見つけると、彼は、「考えがあるんだ」と言いました。すると、ジェイミーも、「僕にも考えがあるんだ。先に君の考えを聞かせてくれよ」と、言うのです。

ウィリントンは、「神さまが、僕に、暗闇しかないバーの中で光になれとおっしゃっているような気がするんだ」と言うと、ジェイミーは、驚きながら、「わあ！ 僕が言おうとしていた考えとまったく一緒だよ」と言いました。それは、単なる偶然ではありませんでした。2人は、ウィリントンがアルコール依存症の人々の助けをするように、聖霊が働きかけているのだと信じました。

次の週から、ウィリントンは、バーにいる人々を誘い、自宅で聖書研究を始めました。安息日の午後に行った第1回目の聖書研究には11人の人が集まりました。週を重ねるごとに参加者は増え、ウィリントンの家で行うことができなくなりました。彼は大きな家を借りましたが、すぐにその家も手狭になりました。そのため、集会するための場所を借りました。バプテスマを受ける人々も出てくるようになり、集会はどんどん大きくなっていきました。

最終的に、ウィリントンはこのグループのサイズにあった専用の建物が必要であると判断しました。購入できそうな物件を探しましたが、市の建物はどれも高く、購入は困難でした。祈っている時、16歳のころから出入りしていたバーを訪ねてみることを思いつきました。現実的ではないことはわかっていましたが、その建物を購入できれば、改装して集会を持つ場所にできそうです。ウィリントンは、「神さま、わたしがバーを改装して働くことを望まれますか」と、祈りました。

ウィリントンは、バーの持ち主を探しました。す

ると、その建物が売りに出されていることがわかりました。バーの持ち主はウィリントンを見ると、かつての彼を思い返し、ウィリントンの酔っていない姿に驚きました。オーナーは、「本当に君なのか？」と、尋ねました。ウィリントンは、「はい。わたしです」と答えました。オーナーは、「だって、君は、しょっちゅうここに飲みにきていたではないか」と続けました。

「そうなんです」

オーナーは、信じられないというふうに、頭をふり、「君のことは知っているよ。でも、君が新しい人生を歩んでいるなんて信じられない」と言いました。そして、オーナーは、建物の値段を教えてくださいました。

しかし、ウィリントンには、支払えるだけのお金はありませんでした。他の教会員にも価格を伝えましたが、みんな、それだけのお金はありませんでした。

ウィリントンはあきらめませんでした。彼は、教会員に向けて、「神さまの計画は完璧です。心配いりません。この建物はわたしたちのものになります」と言いました。ウィリントンと教会員は、祈りながら、資金を集め始めました。そして、1年後、その建物を購入し、アドベンチスト教会と感化センターにしたのです。

現在、この教会では毎安息日、約 50 名が礼拝をささげています。平日は、ライフ・スキル・レッスンや、酒を飲まない生活のためのプログラムが持たれています。教会の長老であり、センターの代表であるウィリントンは、彼が立ち上げた小さなグループから、15 人以上のアルコール依存症の人がイエスさまに心をささげ、バプテスマを受けたと報告しています。そして、過去 3 年で、新しい教会とセンターを通して 85 名のバプテスマが与えられました。

ウィリントンは、「わたしは今、イエスさまのために失われた人々を探す働きをしています。それは、パウロのように、常に福音を宣（の）べ伝え、神さまの力をお借りして神さまのもとへ人々を導く働きです。神さまの計画は完璧で、変わることはありません」と、力強く語ります。

この伝道地便りは、コロンビアの人々の生活と、

伝道における困難を描いています。今期の 13 回献金の一部は、コロンビアのブエナベントウラとプエルト・テハダに同じような感化センターを開設するために用いられます。そこでは、若者のアルコールと薬物依存を助ける働きを行う予定です。皆さまの心のこもった献金を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ベラルーシの場所を地図で示してください。それから首都のミンスクを示してください。今期の 13 回献金でこの地に青年たちのための感化センターが建てられます。
- YouTube で、ビクトールの歌う” Kindness (優しさ)” という歌を聞いてください。 bit.ly/Viktor1-ESD
- YouTube で、ビクトールの歌う” How many ways (いくつの道を)” という歌を聞いてください。作詞作曲も彼によるものです。 bit.ly/Viktor2-ESD
- 今回のお話の写真を Facebook からダウンロードしてください。 bit.ly/fb-mq
- ユーロ・アジア支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/esd-2024
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。
「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人や家族を訓練する」(「霊的成長の目標」No.5)。
「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)
「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を体現できるように支援する」(「霊的成長の目標」No.7)
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- 1980年代と1990年代、コロンビアでは残酷な政治的暴力が行われました。ある場所では、教会員や牧師が誘拐されたり、迫害されたりしました。また、家を追われることもありました。

5. 本当の宝物

コスタリカ



ジャキエル

ジャキエルは、コスタリカの貧しい家の貧しい男の子でした。幼い頃、彼は何も持っていませんでした。しかし、16歳くらいから、太い金のネックレスを首に巻き、金の指輪をはめるようになりました。

その様子を見て、近所の不良グループのメンバーたちは不審に思いました。「悪魔」というあだ名を持つ不良グループのリーダーは、ジャキエルが許可なしに違法薬物を売買しているのではないかと疑いました。そこで、SNSを使ってジャキエルに連絡し、「そのネックレスって本物？」と、聞くようにメンバーに命令しました。

ジャキエルは、本物の金を身に着けていることを誇りに思っていたので、「そうだよ」と一言だけ返信しました。ジャキエルは、その連絡が不良グループから来たものだとわかっていました。ジャキエルもかつて不良グループの一員だったからです。しかし、今は他のグループに所属するようになり、違法薬物を取り引きする代わりに、家に押し入って泥

棒をしたり、時には人を誘拐したりして得た金銭で金のジュエリーを買っていました。

返信してから数時間後の午後7時、ジャキエルは、不良グループのメンバーがバイクに乗って勢いよくやってくる様子を見ました。ジャキエルは、ちょうど、夜寝るためにやってきた祖母の家の前にいました。日中過ごした母親の家から、祖母の家に向かって歩いてきたところだったのです。

バイクの後ろに乗っていたのは、不良グループの兄弟でした。ジャキエルには、その後部座席に乗っているメンバーが9ミリの銃をジャキエルに向け、撃つという恐ろしい光景を目にしました。ジャキエルはその銃のことを知っていました。その銃は、数か月前にジャキエル自身がその男に売ったものでした。

瞬く間に8発もの弾丸がジャキエルの体に撃ち込まれました。2発は足に、5発は胸と腹部に命中しました。ジャキエルは怯えながら地面に倒れこみました。恐ろしさのあまり、声を出すことも叫ぶこともできませんでした。幼い時にセブンスデー・アドベンチストの叔母に教えてもらったお祈りと聖書のみ言葉を思い出し、それで頭がいっぱいになりました。そこで初めて、不良グループに入ったことが間違いであったことを悟りました。そして、「神さま、赦してください」と、祈りました。

時間は止まったままのように感じました。バイクが走り去る音が聞こえました。車が横を走っていきましたが、止まることはありませんでした。そして、家から祖母が出てきてジャキエルのそばにかがみこみました。2台目にやってきた車はそこに停まりました。2人の人が出てきて、ジャキエルを抱えて車に乗せると病院に連れていってくれました。

ジャキエルは、次の日の午後3時に目覚めました。呼吸をするための機械につながれていました。腹部の真ん中には23針も縫われた跡がありました。そこで、彼は、もう少しで自分が死ぬところだったこ

とを知りました。叔母の教会のアドベンチストの仲間たちが、ジャキエルが生き延びることができるようにと必死に祈ってくれました。ジャキエルが生き延びられたのは奇跡でした。その日から、ジャキエルはイエスさまのために生きる決心をしました。

それから3年後、ジャキエルは美容師になるための勉強をしています。ジャキエルは、自分の経験を他の若者に話し、不良グループではなく、神さまを通して人生の意味を見つけるようにと伝えます。良いもので心を満たし、神さまのそば近くにいるようにと強く語ります。

ジャキエルは自分の人生を振り返り、十代の自分が無駄なもので心を満たしていたことを後悔しています。そして、今は聖書を読む時間を増やすことで神さまが心を良いもので満たしてくださると信じています。聖書の中でパウロはこう言っています。「あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにしてお yourselves を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい」(ローマの信徒への手紙 12 章 2 節)。

ジャキエルは、「過去を忘れて、良いことを考えて生きていきたいです。神さまのお助けがあれば、過去の自分からは遠く離れることができると信じています」と言います。

ジャキエルは、彼を撃った2人の兄弟について警察に明かしませんでしたので、2人は罰を受けることはありませんでした。ジャキエルは当時と同じコミュニティに住んでおり、警察に通報することが、彼自身も、また母親や祖母をも危険にさらすことを知っているのです。

かつてジャキエルがつけていた金のネックレスと指輪は、あの襲撃の日どこかにいってしまいました。誰がジャキエルから外したのかはわかりません。しかし、ジャキエルは気にしていません。ジャキエルは、身に着けることのできる本当の宝を見出したからです。ジャキエルの心があるところに、本物の宝があるのです。

この伝道地便りは、コスタリカの人々の生活と、伝道における困難を描いています。今期の 13 回献

金の一部は、コスタリカでジャキエルと同じようにギャングや違法薬物といったリスクの中にいる子どもたちを助ける感化センター建設のために用いられます。皆さまの心のこもった献金を心から感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- ・地図でコスタリカの位置を示しましょう。
- ・YouTube でジャキエルについて短い動画を見ましょう。 bit.ly/Teacher-Antonia.
- ・フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq.
- ・アメリカ中央支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/iad-2024
- ・この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」(「霊的成長の目標」No.6)

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」(「霊的成長の目標」No.7)

詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

宣教メモ

- ・フランク・ハッチンとコーラ・ハッチンという夫婦が、19世紀後半と20世紀前半に中央アメリカのカリブ海沿岸で働いた最初のアドベンチストです。フランクは歯科医、文書伝道者、牧師として働きました。その頃の移動手段はボートでした。最初はボートをレンタルしていましたが、その後ヘラルドという名前の宣教スクーター(2本マスト帆船)を手に入れました。
- ・約52%のコスタリカの人々はカトリック、25%がプロテスタント、17%が無宗教、6%がその他というデータがあります。

6. 3人の子どもを求めて祈る

コスタリカ



ステファニー

コスタリカに住むステファニーは、結婚を予定している男性と、将来設計について話し合いました。すると、2人とも同じことを望んでいることがわかりました。それは、実の子どもを2人儲け、3人目は養子を迎えたいということでした。

結婚して5年が経ちましたが、2人には子どもができませんでした。そこで、2人は、養子を迎えることを考えました。養子を仲介してくれる機関に相談すると、手続きはとても難しいことを説明されました。すでに待っている人がたくさんいること、待っても必ず養子の赤ちゃんを迎えられるとは限らないこと、時には10代の子どもが紹介されることもあることを説明されたのです。

数か月後、ステファニーは、女の子を妊娠していることがわかりました。3年後、今度は、男の子を出産しました。それから、9年が経ちましたが、ステファニーと彼女の夫は養子を迎えたいという願いをもち続けていました。しかし、誰が？ いつ？ どこから？ どうやって養子を与えられるのでしょうか？

ステファニーは夫に、「心配しないで。お祈りする

から。神さまにお祈りして、わたしたちが探しに行かなくても、神さまがわたしたちに養子を与えてくれるようにお祈りするわ。」と言いました。ステファニーは神さまに祈りましたが、すぐにそのことを忘れてしまいました。

ある安息日、ステファニーは、教会に初めて来た女性に声をかけ、聖書研究を一緒にしませんかと誘いました。すると、彼女は、「わたしの家に来てください。わたしは、10人の子どもの母親なんです」と言いました。この女性は、児童養護施設で子どもの面倒を見る職員だということがわかりました。この養護施設は15の建物をもっており、1つの建物には10人ずつ子どもが生活していました。そして、それぞれの建物に1人の職員が配置されていました。

ステファニーは、施設に出向き、1人の職員と10人の子どもたちに聖書研究を受けました。その職員は、神さまに心をささげる決心をし、バプテスマを受けました。

施設長は、聖書研究を受けた職員に良い影響があったことを認め、他の14の建物でも聖書研究を行うようにお願いしました。ステファニーは教会理事会に相談し、教会は、それぞれの建物に教会員を派遣することを決めました。ステファニーは7番の建物担当となりました。

7番の建物には、11歳のミッシェルが住んでいました。初日から、ミッシェルの行動はステファニーの気を引きました。ミッシェルはステファニーのカバンを持ち、一生懸命話を聞き、積極的に聖書研究に参加しました。2人はすぐに仲良くなり、深い絆で結ばれました。

施設の許可を得て、ステファニーはミッシェルを伝道集会に連れていき、ミッシェルはバプテスマを受けました。その頃から、ミッシェルは、ステファニーに「わたしを養子にしてくれない？」と尋ねるようになりました。ステファニーは、「この子を養子に迎えるべきかどうか」と自問自答しました。家に

帰ると、ステファニーは夫にミッシェルが望んでいることを伝えました。2人は、過去にささげた養子を迎えたいという祈りの答えがミッシェルなのか、よく考えました。そして、神さまに確かな答えを求めて祈りました。

ある日、ステファニーは、ミッシェルと出会う3、4年前に起こった出来事を思い出しました。ある時、1人の女性に教会に来て証をしてくれるようお願いしました。その女性は、さまざまな教会を訪れては、自分が刑務所に行き、6人の子どもを施設に預けたこと、そして、刑務所内でアドベンチストのラジオを聞きアドベンチスト教会員となったことを証していました。しかし、その女性はステファニーの教会に来て証をすることはなく、ステファニーもその女性との連絡を取らなくなっていました。

ステファニーは、その女性がその後どうなったのか気になりました。そして、女性の SNS を見ました。すると、女性はアドベンチスト教会員ではなくなっていたことがわかりました。女性の SNS をさらに見ていくと、そこにはミッシェルの写真が載っていて、「マイ・ベイベー（わたしの赤ちゃん）」と書かれていました。ステファニーは驚きました。その女性は、施設にいるミッシェルの母親だったのです。

数日後、ステファニーは、7番の建物で行われた誕生日会に参加し、ミッシェルに会いました。パーティの途中、ミッシェルは、ステファニーの携帯を使わせてほしいとねだり、「わたしのお母さんを見せてあげるよ」と言いました。ステファニーがうなずくと、ミッシェルはオンライン上にあった母親の写真をステファニーに見せてくれました。確かに、ミッシェルが母親だといった女性は、ステファニーが教会に招いて証をしてもらおうとした女性でした。

ステファニーにとって十分な確証が与えられました。ステファニーは、神さまが彼女の家族にミッシェルを養子として与えようとしておられることを悟りました。そこで、ステファニーは施設長に養子縁組について相談しました。ステファニーは、初めて施設に来て、ミッシェルと交わりを始めた時は、自分の SNS の友だちリストにいる1人がミッシェルの母親だとは知らなかったことを伝えました。施設長も、今後一切ミッシェルの母親と連絡を取らなけ

れば、そのことは問題ではないと言ってくれました。

すぐに、ミッシェルはステファニーの家に移ってきました。その時、ミッシェルは12歳でした。養子縁組が成立するまであと4年かかります。しかし、そんなことは関係ありません。ミッシェルはもうステファニーの家の子どもののです。

ステファニーは幸せでいっぱいです。夢に描いた通り、2人の実の子どもと1人の養子に恵まれたのですから。

この伝道地便りは、コスタリカの人々の生活と、伝道における困難を描いています。今期の13回献金の一部は、コスタリカの感化センター建設のために用いられます。そこで、イエスさまの愛が児童養護施設などで暮らす子どもを含む、多くのリスクにある子どもたちに伝えられます。

〈お話のヒント〉

- 地図でコスタリカの位置を示しましょう。
- YouTube でミッシェルについて短い動画を見ましょう。 bit.ly/Teacher-Antonia.
- フェイスブックで写真をダウンロードしましょう。 bit.ly/fb-mq.
- アメリカ中央支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をダウンロードしましょう。 bit.ly/iad-2024
- この伝道地便りは、セブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の、以下の項目の具体例です。

「子ども、青年の入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）

「青年が神を第一とし、聖書的な世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- コスタリカはスペイン語で「裕福な海岸」という意味です。
- 1948年12月1日、コスタリカは軍制度を廃止しました。かつての軍事費用は、現在医療と教育に使われています。